

NPO法人

全日本語りネットワークの ニュース

2024. 4. 21 発行

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3 国分寺マンション B-03A

(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

ようこそ！「第16回全日本語りの祭り in 奈良」へ

小西宏明・小西雅子（奈良市）

「語りの祭り」が関西で開催される（2024年9月9日～10日）のは初めてとのこと。全国の語りや紙芝居をされる皆さま、それを心から楽しまれる皆さまを奈良の地でお迎えできることをとても光栄に思うとともに、ワクワクしております。

井上理事長は、「語りと紙芝居のコラボレーションによって生み出されたお互いの交流をさらに深め、語りの文化を豊かにしていくことが、今後の語りの祭りの方向性ではないか」（『全日本語りネットワークニュース』2023年1月29日発行より）と書いておられますが、奈良でもこのお考えに共感し、祭りの準備を進めています。

全体会では「奈良づくし」と題して、奈良の魅力をたっぷり感じ、楽しんでいただきたいと思います。奈良の3つの地域（ならまち、柳生、吉野）の民話地図を参加される皆さまへのお土産としてお渡ししますが、「ならまち」については、スクリーンに映した写真を見ていただきながらご案内したいと思います。紙芝居では「良弁杉」（奈良）、「おくりおおかみ」（生駒）、「井戸がこわくなった仁王さん」（御所）、「浅田松堂」（御所）、語りでは「蓮長寺の龍」（奈良）、「鬼子母神とザクロ」（奈良）、「牛小屋にいたばあちゃん」（御所）、などを楽しんでいただきます。また、奈良は「妖怪の宝庫」という方がおられるほど多くの妖怪話が残っています。中谷有香さん（紙芝居作家）による妖怪（ジャンジャン火、砂かけ婆、ヒダル神、木の子、ガゴゼなど）にまつわるお話や絵も楽しんでいただければと思っています。

振り返れば、2010年の平城遷都1300年祭に合わせ、奈良教育大学名誉教授の竹原威滋先生（ドイツ文学者・口承文芸学者）のご指導のもと、「奈良民話祭り」を開催し、「奈良の民話を語りつぐ」活動をスタートしました。コロナ禍で始めた ZOOM での「奈良民話祭り」は別として、日頃は図書館や公民館、古民家など対面でのおはなし会なので、主に奈良市内の語り手が市内の聴き手を対象に活動をする事が多く、どうしても活動の広がりには限られたものになっていました。しかし、地元奈良での「語りの祭り」の開催をきっかけに、長年にわたり「語りの祭り」に参加されている「御所おはなしの会」の方々との交流が生まれ、奈良市や生駒市などのメンバーと心をつなげて準備を進めているところです。このような繋がりができ、連帯感が生まれたことは、今後の活動にも大きな財産になると感じています。会場となる「ホテル日航奈良」はJR奈良駅西口直結のとても交通の便が良いところにあります。全国の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

「奈良には奈良時代が生きている」という方もおられます。ぜひ、歴史ある奈良で、語りの世界をごいっしょに楽しみましょう！

